

デジタルツールのデータ連携における標準化に関する調査業務

標準データセット利用の手引き

2026年3月16日

v1.0

全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会

日本ホスピタリティテクノロジー協会

目次

| | |
|--|----|
| 目次..... | 2 |
| 1. はじめに | 3 |
| 1.1 本手引きの目的..... | 3 |
| 1.2 JHTA 標準データセットの概要..... | 3 |
| 1.3 提供形態..... | 3 |
| 2. データ定義シートの読み方 | 4 |
| 2.1 列構成 | 4 |
| 3. 標準マッピングの活用 | 4 |
| 3.1 マッピング列の読み方..... | 4 |
| 3.2 項目名の差異に注意 | 5 |
| 3.3 既存システムとの対応付け | 5 |
| 4. なぜ PMS は OTA Codelist を参照すべきか | 5 |
| 4.1 戦略的意義..... | 5 |
| 5. OTA に準拠すべきマスター一覧..... | 6 |
| 5.1 客室関連..... | 6 |
| 5.2 施設関連..... | 6 |
| 5.3 予約・会計関連..... | 7 |
| 6. 日本独自仕様の取り扱い方針 | 8 |
| 6.1 本データセットで独自定義したコード | 8 |
| 客室管理系 | 8 |
| 会計・税務系..... | 8 |
| 予約・営業系..... | 9 |
| 6.2 日本固有の客室仕様への対応..... | 9 |
| 6.3 ABS (Attribute Based Selling) について | 9 |
| 7. OTA に存在しない項目の拡張ポリシー | 10 |
| 8. OpenTravel への追加提案プロセス..... | 11 |
| 8.1 現在の申請候補..... | 11 |
| 8.2 申請フロー | 11 |
| 9. 国内標準との整合方針 | 12 |
| 9.1 参照優先順位 | 12 |
| 9.2 GIF (政府相互運用フレームワーク) との関係 | 12 |
| 9.3 TravelXML との関係 | 12 |
| 9.4 ISO 規格の活用..... | 12 |
| 10. ガバナンス..... | 13 |
| 10.1 管理主体..... | 13 |
| 10.2 更新プロセス | 13 |
| 10.3 バージョン管理..... | 13 |

1. はじめに

1.1 本手引きの目的

本手引きは、JHTA 標準データセット v1.0 を PMS に活用するための実務ガイドです。データ定義の読み方、コードリストの運用方法、および国際標準との整合性を保つための設計方針を示します。

1.2 JHTA 標準データセットの概要

本データセットは、PMS が基本的に保持すべきデータ項目を、国際標準（OTA 1.0/2.0、HTNG Express、HTNG Kiosk）および国内標準（GIF、TravelXML）を参考に整理したものです。国際標準を参考に設計されているため、今後の OTA・サイトコントローラー・館内システムとのデータ連携の基盤となります。

1.3 提供形態

Google スプレッドシート（読み取り専用）として公開されます。

- URL: https://docs.google.com/spreadsheets/d/1x-EV8k7ta3NDZQ5eyjo6vtrsYAnIBCslbjKqL_bk1gE/edit?usp=sharing

| シート名 | 内容 | データ項目数 |
|--------|--------------------------|--------|
| 個人情報 | ゲストプロフィール（氏名、連絡先、パスポート等） | 31 |
| 予約情報 | 予約基本情報、宿泊期間、人数、料金プラン等 | 110 |
| 客室情報 | 客室マスター（タイプ、設備、ステータス等） | 27 |
| 売上会計 | 売上明細、税金、支払い等 | 45 |
| 施設・設備 | 施設マスター（名称、住所、設備等） | 31 |
| 宿泊情報 | チェックイン/アウト時のデータ構成 | 8 |
| コードリスト | 全コード定義（約 2,000 エントリ） | — |

2. データ定義シートの読み方

2.1 列構成

各項目定義シート（個人情報、予約情報、客室情報、売上会計、施設・設備、宿泊情報）は共通の列構成です。

| 列名 | 説明 |
|--------------------|--|
| No | 項目番号。データ項目に付与。参照項目やサブヘッダーには付与されない場合あり |
| 分類 | 項目の分類名（例: 氏名、連絡先、予約基本情報）。サブヘッダー行にのみ記載 |
| 項目名（日本語） | 日本語の項目名 |
| 項目名（英語） | スネークケースの英語名（例: <code>name_full</code> , <code>check_in_date</code> ）。API 実装時のフィールド名として利用可能 |
| 必須/推奨/任意 | 実装の必須度 |
| データ型 | <code>string</code> , <code>integer</code> , <code>decimal</code> , <code>date</code> , <code>datetime</code> , <code>time</code> , <code>boolean</code> , <code>code</code> のいずれか |
| コードリスト | 参照するコードリスト名（例: <code>BED</code> , <code>JRST</code> ）。コードリストシートと対応 |
| 説明 | 項目の補足説明 |
| GIF~TravelXML (5列) | 各国際標準仕様とのマッピング情報 |

3. 標準マッピングの活用

3.1 マッピング列の読み方

各項目定義シートの右側5列には、国際標準仕様とのマッピング情報が記載されています。

| 列名 | 標準仕様 | 特徴 |
|----------------------|--------------------------|------------------------|
| GIF | 政府相互運用フレームワーク | 行政データ連携。住所・個人情報に強い |
| HTNG Express | HTNG Express Reservation | REST API。PMS 連携の現代的な標準 |
| HTNG Kiosk / OTA 1.0 | HTNG Kiosk / OTA XML | セルフチェックイン・OTA 連携 |
| OTA 2.0 | OpenTravel Model | モデル駆動型の次世代標準 |
| TravelXML | TravelXML (JATA) | 日本国内の旅行業連携 |

マッピング列にはその標準仕様における対応する要素名（例: `PersonName / Surname, name_last`）が記載されています。空欄の場合はその標準仕様に対応項目がないことを意味します。

※ マッピング情報はあくまで参考としての対応関係です。実際のシステム連携においては、各国際標準仕様のオリジナルドキュメントを必ずご確認ください。

3.2 項目名の差異に注意

同じ概念でも、標準仕様ごとに項目名が異なります。既存システムとの連携時は、マッピング列を参照して対応付けを行ってください。尚、各標準仕様と連携する際は正式なマニュアルを参照して行ってください。

例: 姓 (ゲストの姓) の各標準での項目名

| 本データセット | GIF | HTNG Express | HTNG Kiosk/OTA 1.0 | OTA 2.0 | TravelXML |
|-----------|------------|--------------|----------------------|----------------------|--------------|
| name_last | familyName | name_last | PersonName / Surname | PersonName / Surname | GuestSurName |

3.3 既存システムとの対応付け

PMS 側で既に独自の項目名を持っている場合、以下の手順で対応付けを行うことを推奨します。

1. 本データセットの項目名（英語）を基準として、自社 PMS の項目との対応表を作成する
2. マッピング列を参照し、連携先システムが使用する標準仕様の項目名も把握する
3. データ変換レイヤーで項目名の変換を行う

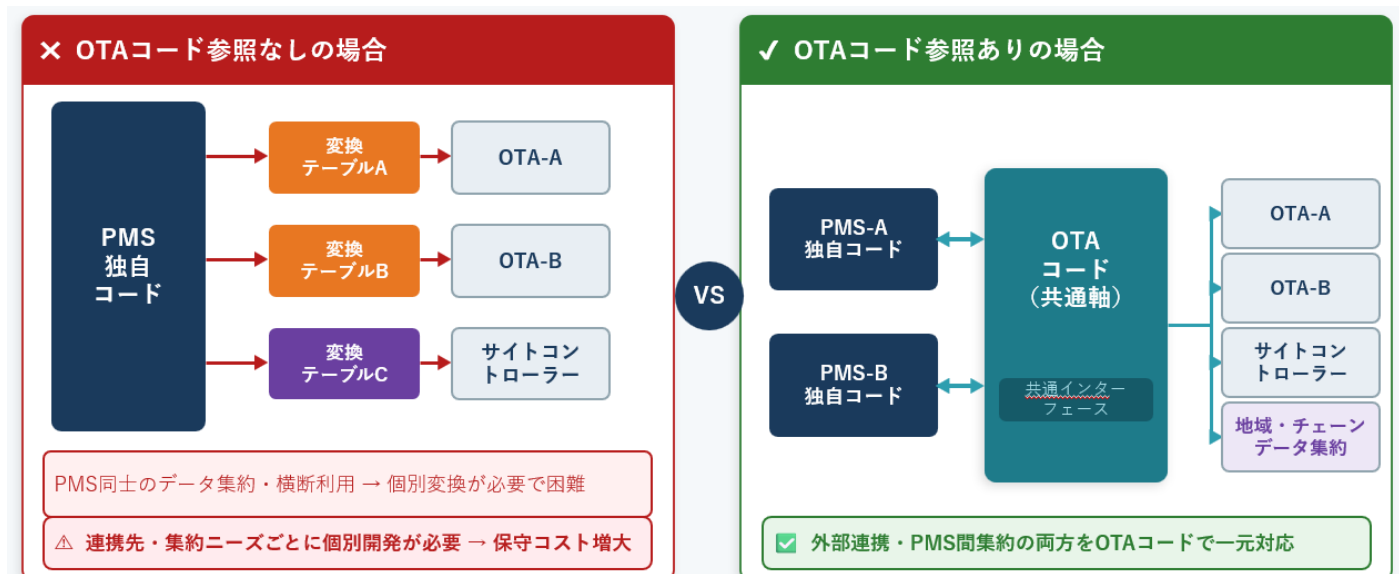
4. なぜ PMS は OTA Codelist を参照すべきか

4.1 戦略的意義

OTA Codelist (OpenTravel Alliance Code List) は、世界の宿泊業界で広く参照されているコード体系です。PMS が OTA Codelist を参照コードとして保持することには、以下の戦略的意義があります。

1. OTA・サイトコントローラーとの連携効率化

また、複数 PMS のデータを集約・比較したい場面（地域単位でのデータ統合、チェーンホテルでの一元管理など）においても、OTA コードが共通の軸となることで、PMS 間の横断的なデータ活用が容易になります。



2. インバウンド対応

海外 OTA や CRS（Central Reservation System）、HTNG Express などの国際的なシステムでは、OTA コード体系が広く参照されています。グローバル連携を見据える場合、OTA コードを参照コードとして保持しておくことが有効です。

3. 開発コスト削減

業界標準のコード体系を参照することで、新規連携先が増えた際の開発コストを大幅に削減できます。また、PMS のリプレースや統合時にも、標準コードをベースにしたデータ移行が容易になります。

4. 将来の拡張性

OTA Codelist は定期的に更新されており、新しい概念（例: サステナビリティ関連設備）も追加されています。標準コードを参照する設計にしておけば、将来の拡張にも対応しやすくなります。

5. OTA に準拠すべきマスター一覧

本データセットで利用した OTA 準拠コード 21 種の一覧です。PMS のマスター設計時に参照してください。

※ 本データセットが参照している OTA コードリストは **2024A バージョン** に基づいています。OTA コードリストは定期的に更新されるため、最新版は OpenTravel Alliance の公式サイト（<https://opentravel.org/>）でご確認ください。

5.1 客室関連

| コード名 | OTA 正式名 | 値数 | PMS 用途 |
|------|-------------------------|-----|----------------------------|
| BED | Bed Type Code | 16 | ベッドタイプ（シングル、ツイン、キング、布団、畳等） |
| RVT | Room View Type Code | 45+ | 客室眺望（オーシャンビュー、マウンテンビュー等） |
| RMA | Room Amenity Code | 398 | 客室設備属性コード |
| RLT | Room Location Type Code | 31 | 客室の位置区分（高層階、低層階等） |
| SEC | Security Feature Code | 155 | セキュリティ設備 |

5.2 施設関連

| コード名 | OTA 正式名 | 値数 | PMS 用途 |
|------|--------------------------|-----|----------------------------|
| PCT | Property Class Type | 64 | 施設種別（ホテル、旅館、B&B 等） |
| HST | Hotel Status Code | 11 | 施設状態コード |
| HAC | Hotel Amenity Code | 517 | ホテル設備・アメニティ（Wi-Fi、駐車場、スパ等） |
| BUS | Business Service Code | 103 | ビジネスサービス（会議室等） |
| RST | Recreation Type Code | 156 | レクリエーションタイプ |
| ACC | Area Attraction Code | 114 | 周辺施設 |
| CUI | Cuisine Code | 124 | 料理ジャンル |
| ARC | Architectural Style Code | 14 | 建築様式 |

5.3 予約・会計関連

| コード名 | OTA 正式名 | 値数 | PMS 用途 |
|------|-----------------------------|----|--------------------|
| RES | Restaurant Category Code | 30 | レストランカテゴリ |
| PMT | Payment Type Code | 50 | 支払方法 |
| RCC | Revenue Category Code | 36 | 売上科目分類（室料、飲料、食事等） |
| CHG | Charge Type Code | 34 | 料金種別 |
| MPT | Meal Plan Type Code | 27 | 食事プランタイプ |
| RAT | Room Amenity Type Code | 13 | ルームアメニティコード |
| GRI | Guest Room Information Code | 91 | ゲストルームインフォメーション |
| PRT | Profile Type Code | 23 | 会社区分（顧客、旅行代理店、企業等） |

6. 日本独自仕様の取り扱い方針

6.1 本データセットで独自定義したコード

国際標準のコードリストでカバーできない日本固有の業務要件に対応するため、本データセットでは14種のコードを独自定義しています。

客室管理系

| コード名 | 用途 | 値数 | 設計参考 |
|------|-----------------------|----|-----------------------------------|
| JRST | 部屋ステータス（空室/滞在中/出発予定等） | 7 | HTNG HousekeepingStatus を参考 |
| JRHK | 清掃状態（未清掃/清掃中/点検完了等） | 6 | HTNG Kiosk HousekeepingStatus を参考 |
| JRHP | 清掃優先度（通常/急ぎ/特別清掃） | 3 | 独自定義 |
| JRSR | サービス要求（DND/メイクアップ） | 2 | 独自定義 |
| JROS | 在不在ステータス（在室/不在） | 2 | 独自定義 |
| JRAC | 客室属性カテゴリ | 5 | 独自定義 |

会計・税務系

| コード名 | 用途 | 値数 | 設計参考 |
|------|---------------------|----|------|
| JDRC | 貸借区分（借方/貸方） | 2 | 独自定義 |
| JSRV | サービス料区分（込/別/対象外） | 3 | 独自定義 |
| JVAT | 消費税区分（込/別/軽減税込/対象外） | 4 | 独自定義 |
| JBTX | 入湯税区分（込/別/対象外） | 3 | 独自定義 |
| JATX | 宿泊税区分（込/別/対象外） | 3 | 独自定義 |
| JJCT | 仕訳区分 | 3 | 独自定義 |

予約・営業系

| コード名 | 用途 | 値数 | 設計参考 |
|------|-------------------|----|------|
| JRSV | 予約ステータス | 10 | 独自定義 |
| JBIC | 会社コード（OTA・旅行会社識別） | 1 | 独自定義 |

6.2 日本固有の客室仕様への対応

日本の宿泊施設には、国際標準にない独自の客室仕様があります。

| 日本固有の仕様 | 対応方法 |
|----------|---|
| 露天風呂付き客室 | RMA (Room Amenity) で管理。OTA に該当コードがない場合は PMS 独自コード (1000 番以上) を付与 |
| 和洋室 | 和洋区分は文字列型で管理 (「和室」「洋室」「和洋室」)。OTA にはこの概念がないため JHTA 独自項目 |
| 部屋食対応 | 食事提供場所として独自項目 (<code>breakfast_location</code> , <code>dinner_location</code>) で管理 |
| 畳数 | OTA には畳数の概念がないため、独自項目 (<code>tatami_count</code>) で管理。 <code>room_size</code> (㎡) と併用 |

6.3 ABS (Attribute Based Selling) について

本データセットでは、客室属性 (和洋区分、眺望、階数、ベッドタイプ等) を個別項目として定義しています。これらの属性は、将来的な ABS (属性ベース販売) 対応の基盤となります。

ただし、ABS の運用モデル (属性の組み合わせ販売ルール、在庫管理、価格設定等) については今後さらに検討を行う予定であり、現時点では暫定版として位置づけています。ABS に関する標準は、JHTA のワーキンググループ等で継続的にアップデートされる予定です。

7. OTA に存在しない項目の拡張ポリシー

OTA Codelist に存在しないコード値を PMS 独自に追加する場合の考え方を示します。

方法 1: OTA コードと同一テーブルで管理する場合

PMS 独自コードを OTA コードと同じテーブル内で管理する場合は、OTA 標準の採番範囲（1～999）との衝突を避けるため、**1000 番以上を使用すること**を推奨します。

| 範囲 | 用途 |
|-------|--------------|
| 1～999 | OTA 標準コード |
| 1000～ | PMS 独自の拡張コード |

この方法のメリットは、OTA 側が将来コード値を拡張した場合にも、PMS 独自コードとの衝突を回避できる点です。

方法 2: OTA コードと PMS 独自コードを別テーブルで管理する場合

PMS が OTA コードと PMS 独自コードを別々のマスタテーブルで管理し、マッピングテーブルで対応関係を持たせる設計も有効です。この場合、PMS 独自コードの採番に OTA 範囲の制約はなく、自社の採番ルールで自由に管理できます。



どちらの方法を採用するかは、PMS のアーキテクチャや連携先の要件に応じて判断してください。

8. OpenTravel への追加提案プロセス

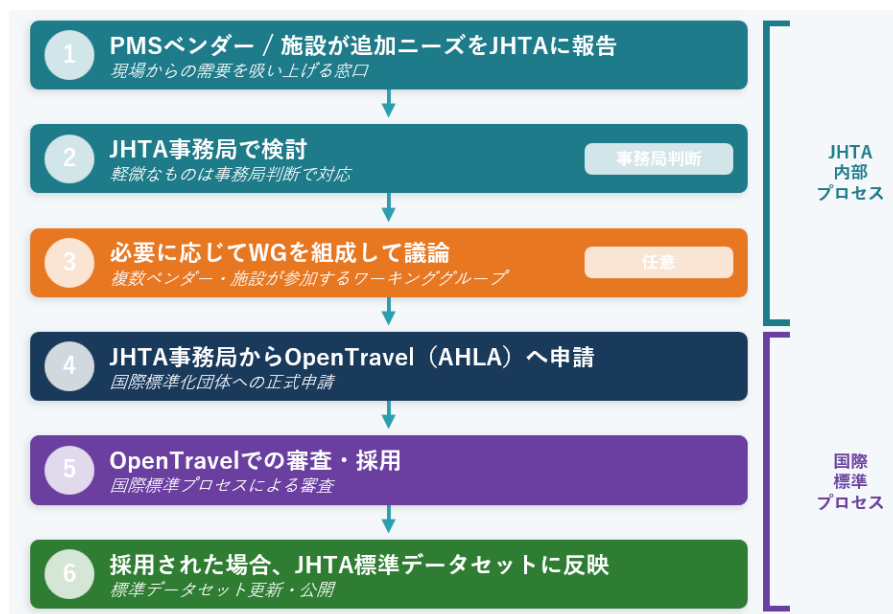
8.1 現在の申請候補

本データセットの策定を通じて、以下の日本固有コードが OpenTravel への追加申請候補として特定されています。

| コードリスト | 追加候補 | 理由 |
|------------|--------------------------------|----------------|
| PCT (施設種別) | 旅館 (Ryokan) | 日本固有の宿泊施設タイプ |
| RMA (客室設備) | 露天風呂付き (Private Open-Air Bath) | 日本の高級旅館の差別化要素 |
| RMA (客室設備) | 温泉付き (Private Hot Spring) | 日本の宿泊施設の特徴的な設備 |

8.2 申請フロー

OpenTravel へのコード追加申請は、JHTA 事務局を通じて行います。



個別の PMS ベンダーが OpenTravel に直接申請することも可能ですが、業界としての説得力を持たせるため、JHTA 経由の申請を推奨します。

9. 国内標準との整合方針

9.1 参照優先順位

本データセットの項目名・定義は、以下の優先順位で各標準仕様を参照しています。

| 優先度 | 標準仕様 | 主な参照内容 |
|-----|----------------------|---------------------------|
| 1 | HTNG Express | 項目名・定義（REST API ベース、実装容易） |
| 2 | GIF（デジタル庁） | データ型・制約条件（行政連携で必須） |
| 3 | HTNG Kiosk / OTA 1.0 | 館内システム連携 |
| 4 | OTA 2.0 | 国際流通標準（JSON Schema） |
| 5 | TravelXML | 国内旅行業連携 |

※ 上記は基本的な参照優先順位です。ただし、項目の性質によっては他の標準を優先している場合があります。例えば、コード値については OTA コードリストを主に参照しています。各項目の実際の参照元は、データ定義シートのマッピング列をご確認ください。

9.2 GIF（政府相互運用フレームワーク）との関係

GIF は個人情報・住所・地理情報の標準化に強みがあります。特に以下の項目で GIF との整合性を確保しています。

- 住所情報（町字 ID を含む構造化住所）
- 電話番号（国際フォーマット対応）
- 地理情報（緯度・経度・標高）
- 個人基本情報（氏名の構造）

行政機関とのデータ連携（観光統計等）を行う場合は、GIF とのマッピング列を参照してください。

9.3 TravelXML との関係

TravelXML は日本の旅行業界で広く使われている国内標準です。国内の旅行代理店や OTA との連携時に参照してください。日本独自の概念（カナ表記、食事プラン等）は TravelXML に定義があるものが多くあります。

9.4 ISO 規格の活用

以下の ISO 規格を参照しています。

| ISO 規格 | 用途 | 例 |
|--------|----|---|
|--------|----|---|

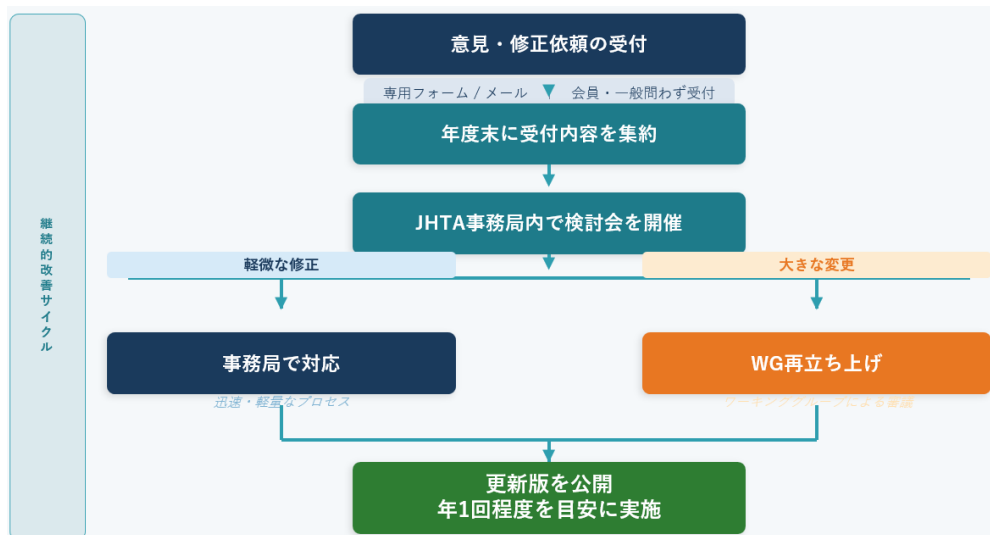
| | | |
|--------------------|---------|---------------------------|
| ISO 3166-1 alpha-3 | 国コード | JPN (日本) , USA (アメリカ) |
| ISO 4217 | 通貨コード | JPY (円) , USD (ドル) |
| ISO 639-1 | 言語コード | ja (日本語) , en (英語) |
| ISO/IEC 5218 | 性別コード | 0=不明, 1=男性, 2=女性, 9=適用不能 |
| ISO 8601 | 日付・時刻書式 | 2026-03-15T15:00:00+09:00 |

10. ガバナンス

10.1 管理主体

JHTA 標準データセット（コードリストを含む）の管理は、**JHTA 事務局**が行います。

10.2 更新プロセス



10.3 バージョン管理

- 本データセットのバージョンは更新履歴で管理されます
- PMS 側では、対応している JHTA 標準データセットのバージョンを管理することを推奨します